

## 県立博物館の現状について

### 1 県立博物館の基本情報

|                 |   |  |
|-----------------|---|--|
| 開館年月日           | 昭和28年(1953)6月26日                                  |  |
| 規模              | 延床面積  | 3,176 m <sup>2</sup>                               |
|                 | 展示面積  | 333 m <sup>2</sup>                                 |
|                 | 収蔵面積  | 1,718 m <sup>2</sup> (+外部収蔵施設 546 m <sup>2</sup> ) |
| 職員              | 常勤職員  | 9人(事務系1人・学芸系8人 館長含めて)<br>学芸系のうち 自然系4人・人文系4人        |
|                 | 非常勤職員   | 5人(事務系3人・学芸系2人)                                    |
| 所蔵資料点数          | 約28万点   |  |
| 入館者数            | 16,977人(平成18年度)                                   |  |
| 平成18年度の<br>新規事業 | 移動展示事業 県内5カ所(総来場者数26,526人)<br>サポートスタッフ事業(登録者数74名) |  |

### 2 現状と課題

| 項目      | 現状  | 課題  |
|---------|---|---|
| 建物全般の問題 | 昭和28年当時の建物であるため、現在博物館機能に必要なとされる展示・収蔵をはじめとした博物館機能を想定した設計がなされておらず、建物の老朽化・スペース不足などから、収蔵・展示環境に支障があり、バリアフリーなどの機能も十分でない。また本館に加えて、旧県立図書館棟を移管使用しているため、館内のレイアウトが機能的でなく、安全かつ効率的な運営の妨げにもなっている。 | 建物の改修を行ったとしても多額の経費が必要となり、抜本的な機能改善を行うことは困難。都市計画区域・風致地区内などの用途制限がある地域であることから、現在地に同規模の建物を建て替えることも難しい。駐車場のスペースも少ない。            |
| 建物の危険性  | 耐震強度の不足および外壁タイル落下などの危険性がある。   | 耐震補強・外壁補修等の工事を実施することが必要不可欠である。  |
| 収集機能    | 収蔵スペース不足と収蔵環境の不備から計画的な収集活動や三重の自然・歴史・文化資産の保護を目的とした収集活動が十分にできない。  | 収蔵スペースの確保だけでなく、収集した資料を整理するための人員と設備などの体制の整備も必要である。   |
| 収蔵機能    | 現在の収蔵施設は、本館の2階展示室や旧図書館の部屋・書庫、館外にある庁舎の空きスペース・民間業者の倉庫などを代用して、分散確保しているものであり、いずれも博物館の収蔵庫として設計されたものではないことから、収蔵環境が十分でなく、安全かつ効率的な管理・維持が難しい状況にある。また収蔵スペースとしても不足している。                        | 三重県の貴重な資産である資料を適切な環境で収蔵し活用できる収蔵庫を確保する必要がある。県立の博物館として集めるべき資料を収集するとともに、三重の自然・歴史・文化資産の保護を目的とした、資料寄託の受け入れにも対応できる収蔵スペースを確保したい。 |
| 調査研究    | 現在の人員では、収蔵資料の整理・  | 人員の確保とともに、他機関との   |

|        |   |   |
|--------|---|---|
| 機能     | 研究に十分な時間を確保できず、本来は活発に行うべき、館外での調査・研究活動も低調なのが現状である。   | 共同研究や県民の参画をはかり、調査研究機能と収集機能を有機的に関連させる必要がある。  |
| 展示公開機能 | <p>展示室のスペース(333㎡)は全国の県立博物館の中でも最低レベルとなっている。また温湿度の制御などの環境も十分ではないため、文化財資料等の展示にも制約がある。</p> <p>現在、トバリユウ・ミエゾウなどの県立博物館を代表する化石資料とトリケラトプスの骨格標本を中心とした常設的展示に加えて、企画展(ミニ展示を含む)を実施、また木造棟で、体験型の展示を実施しているが、いずれも規模が小さいため、効果は限定的である。また、県外からの来館者などから三重の全体を知ることができる通覧的な展示への要望を受けることもある。</p> | <p>約28万点にのぼる資料を十分に活用できる展示スペースを確保する必要がある。来館者から好評な体験型の展示の充実も望まれる(学校団体への効果的な対応も含めて)。</p> <p>県立博物館の資料を県内各地で紹介する機会として、平成18年度より移動展示事業(県内5ヶ所)を実施しており一定の成果をあげている。ただし、各開催地からは、大型の化石資料の展示などの子ども向けの展示を期待されることが多く、また希望される時期も夏期に集中するのが現状で、資料の劣化の問題が深刻化している。現在は一方的な出張展示となっているが、地元との協働型の展示活動に転換していくことも課題である。</p> |
| 教育普及機能 | 館内施設の老朽化・狭さなどにより、館内では、十分な講座や講演会などの活動が実施しづらい状況にある。フィールドワークや歴史探訪など、館外での活動を積極的に行っているが、学校へのお出張なども含めて、人間的な制約から数多く実施することは難しい。また、現在、入館者の半数近くが学校団体であるが、展示室などの館内施設が手狭なため、同時に複数の学校などを受け入れることが難しい状況でもある。   | 職員の確保も必要であるが、むしろ、サポートスタッフなどの県民と協働により、学校への対応を含めて、実施内容や実施回数を充実をはかりたい。   |